

薬学生実務実習対策研修に参加して

千葉東病院 柳澤 京子

令和3年9月8日（水）各病院Webexにて薬学生実務実習対策研修が開催されました。千葉東病院では、認定実務実習指導薬剤師が2名在籍し、令和2年度は、1名の薬学生を受け入れ、令和3年度は薬学生の受け入れはありませんでした。COVID-19の流行から2年経ちますが、現在も厳しい状況が続いています。コロナ禍での薬学生実務実習が薬局、病院の各施設でどのような取り組みをされているのか当院でも参考にしたいと思い参加を希望させていただきました。

はじめに病院・薬局実務実習関東地区調整機構2019-2020年度委員長 吉山友二先生より薬学実務実習の現況と今後のあり方について臨床薬学の基礎と実践をテーマに講義がありました。ウォルトディズニーの例をもとに薬剤師の資質の向上や臨床薬学の発展について、またコロナ時代の実務実習と大学の対応についての講義がありました。コロナ禍における感染症への対策が必要となる実習環境下で、大学、薬局、病院の連携が薬学生の実習に重要であることを再度学ぶことが出来ました。

クオール株式会社 クオールアカデミー・教育研修部 部長 長尾未加先生よりwithコロナにおける薬局実務実習についてのお話がありました。eラーニングを活用しスタッフ教育されており、薬局全体で実習生を受け入れる体制が築かれていました。そして指導薬剤師はじめ他の薬剤師が戸惑うことがないよう情報共有されていました。代表的な8疾患の進捗確認及び病院への引き継ぎツールを作成されており、薬学生にとって大学から薬局、病院へとつなぐ流れが出来ていることはとても充実した実習になると思いました。

西埼玉中央病院 大越千紘先生、高崎総合医療センター 本郷知世先生、国立国際医療研究セン

ター 大橋裕丈先生より各施設での取り組みについて報告がありました。コロナ禍において、自治体の感染状況、病院の方針などによりますが、通常の実習が出来た施設や、病棟業務、チーム医療、他部門の見学などに制限がかかりオンラインでの実習に切り替えて行っているとのことでした。

西埼玉中央病院では、病院ホームページに実習前にということで40問の設問、実習生にむけてのメッセージもあり受け身だけで実習を迎えるのではなく自主性を大切に実習が質の良いものになるように取り組まれていました。

高崎総合医療センター、国際医療研究センターでは、オンラインでの実習において、個人ワーク、グループディスカッション、参加型、体験型など感染状況に応じて柔軟に色々工夫されていることがわかりました。また、今後の課題として、多施設共同でのオンライン実習など様々な分野で集まるグループ病院の特性を活かして行うことが出来ればいいのではということでした。当院では、腎疾患や神経難病など脳神経疾患の患者さまが主に占めているため偏りがあり、多施設共同でのオンライン実習が可能となれば実習内容の向上に繋がるのではと考えます。

コロナにより苦慮しながらも、薬局や病院の工夫された取り組みを知る貴重な機会となりました。今回の研修で学んだことを薬剤部内で共有し、実りの多い実習となるよう薬剤師全体で取り組んでいきたいと思えます。

最後になりますが、本研修を開催にご尽力いただいた先生方、ご講義いただきました諸先生方、本研修への参加にご協力いただいた千葉東病院薬剤部の皆様に心より御礼申し上げます。